



メダカ発見。環境と健康の関係について話が盛り上がる。

きに、非常に大きな財産になっていくのではないかと思うんですね。

**高野** 「健康都市」のコンセプトの中にも、「ネクスト・ジェネレーションのために」ということがあります。環境の世界では、「我々の環境というのは、先祖から受け継いだものではなくて、子孫から借りたものだ」という言葉がありますよね。きつと、子どもたちのものであって、先に借りて使わせてもらっているということを強調したために、「先祖から受け継いだのではなくて」と入っていると思いますけれども。これは、先祖、いままでの人たちの営々とした努力の上にもあるでしょうし、それから、これからの人たちのためにもあるわけですね。これだけ都市化が進みますと、自然環境の中には、管理をして、マネジメントして、コントロールしてというように、人間が支える必要もやはりあります。それぞれの自然の特性に応じて、あるいは

その場所に応じて、いまのテクノロジーを駆使して環境を維持していくということは、次の世代を考えれば、我々の大きな責任の一つのような気がしていますね。

**千葉** 「自然との共生」というのは、言葉は簡単ですけども非常に難しい言葉だろうと思います。人間の活動部分として手助けして、それを維持・保持できるようにしてあげる。やり過ぎてもいけないし、やらなくてもいけないという、その手加減が難しいだろうと思うんですね。それと、もう一つは自然の「再生」だと思っんですね。「共生」の上には、どうしても「再生」、それから「保全」という部分があると思うんですね。だから「共生」と「再生」と「保全」というような形の中で、施策をまたいろいろ考えていかなきゃいけないだろうと。

そこでWHOの「健康都市」を目指して、となると非常に具体性が出てくる。我々も、宣言することによって責



## 健康都市 プログラムとは？

**今** 世界中の都市で人々の「健康」への関心が高まっています。

都市生活の水準が上がる一方で、食糧、居住環境、就労、ライフスタイル、社会経済的環境などにおいていろいろな課題が生まれてきました。それらの課題解決には保健医療だけではなく、環境、教育、都市計画などといったあらゆる分野が関係してきます。

そこで、さまざまな領域で活躍する人が「健康」をテーマにまちづくりに深く関わり、都市住民の健康を確保するための仕組みを構築しよう、という取り組みが1986年にWHO(世界保健機関)で始まりました。これが健康都市プログラムです。現在では世界中の1,000以上の都市で展開されています。

どのような状況が健康都市か、といった定義は特にありませんが、健康都市プログラムを推進する各都市が、抱えている課題を認識し、その都市にふさわしい健康都市のビジョンをつくり、それに向かって持続的に努力をすることが求められます。

市川市でもWHO健康都市プログラムに参加し、市民が健康を感じ、生きがいをもって生活することができるまちづくりを推進していきます。



任が出てくる。そして、それが職員にとつての一つの心構えの基軸になるだろうと。そうやってものを見る中で一歩一歩進んでいくことが、次の住民参加や市民参加、協働というステップにつながっていくのではないのかなと。さらにもうちょっと大きく考えれば、日本からアジアへ、世界へ情報発信ができるようにしていく一つの足がかりがつかめるのではないかと考えがかりありますね。そこら辺は先生にいろいろご指導いただきながら、まちづくりを含めて教えていただいで、我々も準備していきたいと思っんですね。

**高野** 私は市長さんとずっとお話をしてきて、いままでやってこられたこと、あるいはこれからやられることが、もうほとんどそのまま「健康都市」であったわけだと思います。それに巡り合わせたと思っんですね。



**千葉** 本日は、どうもありがとうございました。

**高野** ありがとうございます。